The background of the entire image is a dense, repeating pattern of small red roses. In the center of the image, there is a single, larger white rose, which stands out prominently against the sea of red. The text is overlaid on this floral background.

カルメル
霊性センターニュース

2024年4月 407号

目次

目次	1
心の泉	2
カルメル会の企画案内	2 2
東京	2 3
名古屋	2 6
京都	2 7
通信深読お申込みのご案内	3 1
諸所の企画案内	3 2
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	3 6

心の泉



宇治カルメル会修道院



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる キリストのみ声

「労苦する人、重荷を負う人は、すべて私のもとに来るがよい。私はあなたたちを休ませよう」(マタイ 11・28)と主は言われる。「私の与えるパンは、世の命のためにわたされる私の肉である」(ヨハネ6・51)。「これは、あなたたちのための私の体である。私の記念としてこのようにおこないなさい」(一コリント 11・24)。「私の肉を食べ、私の血を飲む者は、私のうちにおり、私もまたその者のうちにいる」(ヨハネ6・56)。

「私の言ったことばは霊であり命である」(ヨハネ6・63)。

第一章 どれほどの尊敬をもって、 キリストを拝領しなければならないか

1 子

《これらは同じ時に語られたものではなく、また同じところで記されたものでもありません。しかし、どちらも永遠の真理であるキリストのみことばです。それはあなたのみことばであり、真実のみことばですから、私はそれを感謝とまごころをもって受けなければなりません。そのことばはあなたの口から出たみことばです。しかし私へのみことばでもあります。私の救いのために言われたからです。私は喜んでそれをあなたから受け、深く私の心に刻みつけるでしょう。

優しく、甘美さと愛とに満ちた主のみことばは、私を励ましてくれます。しかし、私の罪は私を恐れさせ、汚れた良心はこの尊い神秘の理解をさまたげます。みことばの甘美さは私を引きつけますが、しかし私は数え切れない悪に押さえつけられています。

2 友への呼びかけ

いつかあなたと共に遺産を受けたいなら、信頼をもって近づきなさいと、あなたは命じられます。永遠の生命と光栄を得ようと望むなら、不滅の糧を受けなさいと、あなたは私にお勧めになります。「労苦する者、重荷を負う者は、すべて私のもとに来るがよい、私はあなたたちを休ませよう」(マタイ 11・28)と言われます。

主なる神よ、乏しい者、貧しい者に、聖なるおんからだを拝領しなさいと招いてくださるそのみことばは、罪人の耳には実にありがたいことです！しかも、あえてあなたに近づこうとするこの私は何者でしょうか？こらんください、天の広大さもあなたを納めることができない(列王上 8・27 参照)のに、あなたは「皆、私に近寄りなさい！」と言われるのですか！

主は復活された アレルヤ！



復活されたキリストは
水辺に立った

今日 主とともに行こう

いのちのみ言葉で 愛と真理を伝えよう

エウゲニウス・ジェブラ

死に打ち勝ち「復活されたキリスト」は
「いのちの言葉を人々に伝える使命」を
わたしたち一人ひとりに託されました
今日もまた わたしたちの平凡な生活の中で。
無駄な人生はありません。無駄な一日也没有。

自分で確認できなくても、「復活されたキリスト」は
すべての人々と「いのち」を分かち合いたいです。

「復活されたキリスト」のうちに
「いのち」がみなぎっていることを信じます。
けれども、さらに深く信じさせてください。*1



イエスはわたしたちを呼んでおられます。わたしたち一人ひとりを、
いつか知ることになる永遠の名によって呼んでおられるのです…。
その永遠の名はすでに存在しています。*2

日々の汚れ、いたらなさ、失敗、罪の間に覆われていても、
覆われているからこそ キリストの復活の「いのち」を
さらに固く信じ、希望し、おん父の慈しみに信頼しつづけられますように。
神に近づくのにふさわしいものになるまで待つ必要はありません。

伊従 信子 (いよりのぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 1 「いのちの道」サンパウロ出版 写真と文 伊従信子

* 2 「いのちの道 福者マリー・エウジェニヌ師とともに」1章 聖母の騎士社、聖母文庫

子どものころ

九里 彰

3月は卒園式のシーズンである。私もこの数年、金沢教会の隣にある聖ヨゼフ幼稚園の卒園式に出席させていただいている。

いつも圧倒されるのだが、一瞬一瞬を生きている生命力にあふれた子どもたちの何とも言えないすばらしさである。人生の荒波にもまれ、疲れ切った大人よりずっと神の国に近いと感じるのだが、そのことは当の子どもたちに意識されることはない。

卒園式は、子どもたちにとって生まれて初めての晴れ舞台である。緊張と期待が入り混じった複雑な思いだと思うが、中には慣れ親しんだ幼稚園を卒園したくないと思っている子もいるのではないだろうか。だが、子どもは大人にならなければならない。いろいろなことを学び、体験し、大人となり、この世界をさらによりよいもの、より人間らしい世界としていかななくてはならない。

しかし、人間として大人になるということは、信仰の観点から見れば、子どもになることではないかとも思われる。子ども、つまり神の子どもに。キリストも、弟子たちが「だれが一番偉いのか」と尋ねて来た時、「一人の子どもを呼び寄せ、彼らの中に立たせて」、こう言われた。

はっきり言うておく。心を入れ替えて子どものようにならなければ、決して天の国入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。(マタ 18:3-4)

この世では、大人は絶えず人と自分を比較し、自分をより偉い者としようとしている。そうこうしていくうちに、子どものころを忘れていくのである。サン・テグジュペリの『星の王子さま』の言葉が思い出される。

おとなは、だれも、はじめは子どもだった。(しかし、そのことを忘れずにいるおとなは、いくらもない。)

十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (189)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

権威の行使において (3)

夜になり、夕食後、過失矯正の集会が開かれた時、ヨハネ神父は、その兄弟のために罰を免除するよう嘆願し、執り成しをする兄弟がだれもいなかったことを嘆き、それを愛徳の大きな欠如だと考えました」。

それから、だれにもまねできないような仕方に対話を引き起こしました。それが、修道者や共同体を霊的に養成するための彼の教育的方法論だったのです。

これらのことは、この世におけるヨハネ修士の人間性や聖性を理解させるうえで、他の多くの項目となることでしょう。

共同体を豊かにする彼の仕事に関して言えば、彼は独自で天才的でした。

神についての彼の話しぶりや頻度は、他の人々にとって、彼の個人的な聖性の表れであり、隣人愛に対する彼の熱心さの表れでした。

「彼はすべての人に対してとても優しく、謙遜でした。そして目下の者からとても愛されていましたが、私が着衣してから 32 年間、出会った長上の中で彼ほど愛されていた人は知りません。彼は、その靈魂の中で神をととてもたくさん所有しているように思われました。というのも、彼はいつもきわめて穏やかに霊的な事柄を取り扱っていたからです。彼は疲れないように思われただけでなく、私たちも彼から離れることや、彼が話しをやめることを望まなかったのです」。

修道者の何人かは、「(十字架のヨハネ神父が) 二度彼らに食べ物を与えたと言うのが常でした。一回は物質的な食べ物で、もう一回は彼が話した命の言葉でした。前者は体を、後者は魂を支えました」。

けれども、彼がほとんどいつも同じことについて話すのを聞いていた者たちは、うんざりしたのではないのでしょうか。

(P. 九里訳)

復活節 第2主日 (B)

(ヨハネ20：19－31)

復活節第2主日の福音はA, B, C年共通で、ヨハネ福音書の最後の箇所が朗読されます。

ヨハネ21章は後からの付け加えというのが通説となっていますので、20章までで一区切りの話と捉えることもできます。

ヨハネ福音書20章では復活したイエスの顕現について書かれていますが、一番最初に復活したイエスを信じるようになるのは、ハッキリと誰かは明言されていないが、ヨハネ福音書の中で理想的な弟子像として描かれている主に愛された弟子でした。

その次に信じるようになったのは12弟子ではなく、マグダラのマリアでした。

その次に、マグダラのマリアの証言を聞いても信じる事が出来なかった弟子たちに、復活したイエスが顕現して弟子たちも信じる者となりました。

しかし、トマスはその場に居合わせなかったため復活したイエスが顕現して信じるようになった弟子たちの証言を信じる事が出来ませんでした。

ヨハネ福音書の最後の20章は、そのトマスが信じる者となることで閉じられます。

ヨハネ福音書の中でトマスは信じない者の代表者のようですが、色々な変遷を経て信じる者となり、ヨハネ福音書の中で最も荘厳な信仰告白「私の主、私の神よ」と宣言するまでになります。

私たちがイエスの復活を信じる者となり、復活したイエスと関わり、信仰と祈りのうちに生きる者となるには変遷があります。

また、出会い方や出会う時も人それぞれです。

しかし、ヨハネ福音書は、どんな変遷を辿っても、あの信じる事が出来なかったトマスできえも信じる者に変えられたという希望を私たちに示してくれています。(レイモンド・E・ブラウン参照)

主の導きに信頼しましょう。

(P. 志村)

復活節 第3主日 (B)

(ルカ 24 : 35 - 48)

復活節第3主日の典礼は、復活したキリストが悪魔と死に対して勝利するという神秘に再び注目し、集中しています。生命の主は、私たちの罪に対する償いとしてご自身を生贄とされました。

本日の朗読におけるイエスの聖なる現存は、エマウスで二人の弟子たちに主が出現されたできごとのあとのことです。二人の弟子たちは、主がエルサレムに戻ってきて彼らに現れ、聖書を説明したイエスに会ったこと、パンを裂いたとき分かったことを知らせました。彼らがまだこれらのことを話し合っているうちに、イエスが彼らの真ん中に現れ、彼らを驚かせました。このできごとは、ルカによって度々語られ、記録されています。イエスの死と復活の重要性は聖書に明らかにされているように神の目的だからです。復活したイエスは、パンを裂くことのうちに現存し、復活のイエスは肉体的には弟子たちから見えなくなりました。

イエスは、驚きパニックに陥っている弟子たちに近か寄って見て触ってみるよう招きました。イエスは「主の平和」と挨拶して、弟子たちが少しずつ確信を持つようにされました。イエスは焼いた魚を食べることで幽霊ではないことを信じさせました。イエスは彼らが復活したイエスの真の証人となることを望まれたのです。イエスの死を経験した弟子たちの共同体は今やイエスの復活した現存を経験しました。同じ愛深く憐れみ深いイエスは、彼に触れさせ、恐れから癒してくださいます。彼らと一緒に食事をし、友であった同じイエスです。

この福音の一節から得るメッセージは、私たちが自分の生活を新たにし、神のみ言葉の中で、またミサにおいてイエスと出会うように招かれているということです。イエスは、私たちいつでも共にいてくださり、イエスの現存は私たちに平和と安らぎをもたらします。イエスは、私たち皆がまわりの人たちに対して復活の現存の証人となることを必要とされています。恐れを追いやる復活の主の変容の力を自分の生活で試みましょう。私たちは日々イエス様を私たちの勝利の主であると認める必要があります。そして、家族からはじめて、社会の人や憐れみを最も必要としている全ての人たちと自分の経験を分かち合ひましょう。

(Sr. Pauline)

復活節 第4主日 (B)

(ヨハネ 10 : 11-18)

復活節も早いもので第4主日を迎えました。今日の福音は、良い羊飼いの譬え話です。イエスは一体どの様なお方でしょう。四旬節を終えて復活祭を過ごしている私たちは、イエス・キリストは、私たちの住んでいる世界を創られた父なる神の独り子であられ、聖霊によりマリアの胎に宿って人となり、私たちの罪を贖うため十字架上で亡くなり、そして復活なされたことを知っています。

そのイエスがどの様なお方であるのか、私たちは聖書を通して、特に福音書を通して知ることができます。それでは「良い羊飼い」とは、一体どのような人なのでしょう。良い羊飼いとは、羊のために命を捨てる方。良い羊飼いであるイエスは、私たちのためご自分の命を捧げてくださいました。そして羊のことを心にかけておられる方です。

イエスは言われます。父が自分を知っており、自分が父を知っているのと同じ様に、イエスは自分の羊を知っており、羊も私を知っていると。イエスは私を知っている…と言われますが、神の子となった私たちは果たしてイエスを知っているのでしょうか。

単に知識として、頭の上で知っているというだけでは、知っていることになりません。イエスは自分の羊である私たちを導いて下さいます。そのイエスの声を私たちは聞いているのでしょうか。イエスは囲いに入っていないほかの羊もおり、その羊もわたしの声を聞き分けると言われますが、私、いや私たちは、イエスの声を聞き分けることができているのでしょうか。もしそうでなかったとしたら、イエスにとっても非常に悲しいことになるのではないのでしょうか。

神の子とされた私たち…。羊のために命を捧げて下さった、また捧げて下さるお方の声に耳を傾けて、その声に聴き入り、その導きに従って一つの群れとなって歩むことができますように。主のご復活の喜びのうちに、ともに歩んでゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

復活節 第5主日 (B)

(ヨハネ15：1－8)

「人がわたしにつながっており、わたしもその人につながっていれば、その人は豊かに実を結ぶ」

今日の福音は、イエスが死を迎える直前の最後の晩さんの席上で語られた別れの言葉の一部です。さし迫る受難を前に、弟子たちを慰め、励ますために残された言葉でした。

イエスはご自分がぶどうの木であり、御父が農夫であり、弟子たちがその枝だと言います。どの枝も実を結ばなければなりません。イエスにつながっていなければ弟子たちは何もできません。弟子たちがイエスとみ言葉につながっており、イエスもつながっている場合に限り、実を結ぶことができます。弟子たちの内にイエスの言葉があるならば、イエスの名において願うことは御父は何でもかなえてくれ、弟子たちがたくさん実を結べば、御父は栄光を受けて、イエスの真の弟子となります。

イエスは、ぶどうの枝という美しいイメージを用いています。木につながっている枝はいのちを受けて成長し、実を結びます。私たちは全員罪人ですが、イエスの内にとどまり、イエスの内に常に生きてつながっていればイエスが私たちに剪定してくださり、さらに実を結びます。主は必ず私たちの面倒を見てくださいます。しかしもしイエスから離れたなら、名ばかりの「キリスト者」となり、イエスの本当の弟子ではありません。私たちは、自分を剪定して矯正してくれるようイエスの手に自分をゆだねるべきです。イエスの内にとどまるということは、主のいつくしみとゆるしを求めることと絶えずイエスと交わることを意味します。祈りをささげて秘跡的な生活を過ごすことでイエスに忠実に従い、教会・隣人・必要なものに事欠く人のために奉仕することでイエスを証ししていきましょう。

イエスとの交わりの生活を送り、豊かな実を結ぶことによってまことのぶどうの木であるイエスにつながり続ける決心をしましょう。

(Sr. Paulina)

いのちの言葉 4月

使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、
皆、人々から非常に好意を持たれていた。¹

(使徒言行録 4・33)

復活祭の時期に読まれるこの言葉。私たちもまた、福音のメッセージを受け取った者としての、完全な自由をもって「イエスは復活された」という歴史的出来事の証し人となるように招かれています。

使徒言行録にあるこの箇所は、直前の文章も併せて読むことで、よりよく理解することができます。「信じた人々の群れは心も思いも一つにし、一人として持ち物を自分のものだと言う者はなく、すべてを共有していた。」²

使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、
皆、人々から非常に好意を持たれていた。

ここでは、最初のキリスト者共同体が、聖霊に力強く動かされ、分かち合いによって「キリストは復活された」という良き知らせ、福音をすべての人に告げ知らせるよう促されていることが描かれています。

彼らは聖霊降臨の直前まで、一連の起こった出来事に怯(おび)え、狼狽(ろうばい)していましたが、聖霊の力が恐れや不安を一掃し、今や証し人として殉教をいとわない覚悟を持っています。

彼らは心も思いも一つにし、持ち物を分かち合うまでに、お互いの愛を実践していました。このことが、さらに多くの人々を巻き込んでいきます。

イエスに従った女性たち、男性たちは、イエスの言葉に耳を傾け、顧みられない人たちや病人のためにイエスが注がれた愛と奉仕のわざを共に生き、イエスのなさった驚異的な行いを、自分の目で見届けました。そして、彼らは「新しい掟」を生きるように召され、人々の間に神が生きておられることの最初の証し人となったのです。

では、今日イエスに従う私たちにとって、証し人となるとはどういうことでしょうか。

使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、
皆、人々から非常に好意を持たれていた。

主の復活を証しするには、主が私たちの間に生きて、住まわれておられることを示すこと。それが最も効果的な方法ではないでしょうか。「み言葉を生きて、… 隣人への愛を心に灯し続け、私たちの間で常にお互いの愛を保つ努力をするなら、復活された主は私たちの内に、私たちの間に存在してください。主は周りに光と恵みを注ぎ、私たちの想像を超えた実り

をもって、状況を変えてくださいます。聖霊を通して、私たちの歩みと活動を導いてくださいます。復活の主を必要としている人々に、ご自身のいのちをもたらすために、主はすべてのものごとを整え、そのためのよい機会を与えてくださるでしょう。」³

使徒たちは、大いなる力をもって主イエスの復活を証しし、
皆、人々から非常に好意を持たれていた。

マーガレット・カラム⁴は次のように書いています。

『全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。』⁵ 2000年前にイエスが使徒たちに託された、この素晴らしいみ言葉は、歴史の流れを変えました。今、イエスは私たちを同じように招いておられます。イエスご自身が下さった創造力、才能、自由を用いて、私たちが世に福音をもたらすようにして下さるのです。」⁶

「イエスの宣教は、その死によって終わるところか、復活と聖霊降臨の後、新たな力を得ました。弟子たちは、福音の勇気ある証し人となり、彼らの使命は今日の私たちにまで受け継がれています。人生という旅路の道中を、共に過ごす時間が長かろうと短かろうと、一緒に歩む人々に、私たち一人ひとりが神の愛の物語を伝え続けることを、神はお望みなのです。」⁷

パトリツィア・マッツォーラと「いのちの言葉」編集チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1. 日本聖書協会『聖書 新共同訳』
2. 使 4・32
3. キアラ・ルービック、1986年1月の「いのちの言葉」より
4. フォコラーレ運動会長
5. マルコ 16・15
6. マーガレット・カラム、「呼ばれて、派遣されていく」ロッカディパバ 2023年9月15日
7. 同上
- 8.

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812
E-mail: tokyofocfem@gmail.com ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>

<< Communications (時事通信) >>

2024年3月8日

ベルギー発：世界最古の跣足カルメル修道会 女子修道院の共同体が創立555周年を迎える



ベルギーのヴィルフォールデにある、カルメルの慰めの聖母修道院は、1469年2月11日に跣足カルメル修道会司祭 福者ヨハネ・ソレットが四番目に創立した、彼の最後のものです。

修道女たちは、1468年の「リエージュ包囲攻撃」の際にリエージュから逃亡しました。彼女たちの修道院は破壊されましたが、当時のカルメル修道会総長であったヨハネ・ソレット神父の尽力により、ヴィルフォールデに修道女たちの新しい修道院が建てられました。そして1966年3月、ヴィルフォールデのカルメル修道会は、識別と準備の期間を経て、重要な一歩を踏み出しました。そしてカルメル会遵守派(O. Carm.)からテレジア的カルメル会(OCD)への移行期間に、修道女たちはオランダのカルメル修道会遵守派か、あるいはテレジア的跣足カルメル修道会の、どちらに加わるかを選ぶ自由が与えられました。

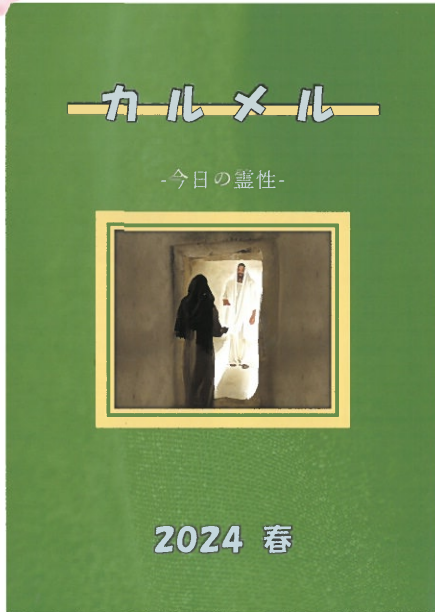
2006年5月7日、この跣足カルメル修道会修道院の教会は、その霊的、歴史的、文化的重要性からゴッドフリード ダニエルズ 枢機卿の推薦で、教皇ベネディクト十六世によって、上位小聖堂に昇格されました。

この修道院は設立550周年が祝われてからまだそれほど経っていないので、修道院共同体の意向で、今年は公に祝うのではなく、祈りを中心に、神への賛美と聖なる三位一体と私たちの祝福された聖母への感謝と賛美の歌を捧げて創立を記念することになりました。

(訳・注:小宮山延子)



カルメル誌 新刊案内



2024年 春号 No.392

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと
十字架の聖ヨハネ(5) 鶴岡賀雄

シノダリティにおける「信仰の感覚」と
十字架の聖ヨハネの「暗夜」の一考察 松田浩一

テレーズ列聖百周年に向けて
—レオニー 妹テレーズの「幼子の道」を行く(1)
伊従信子

陶器師の山暮らしの日々から
ラウダート・シ＝神のいのちへの道(1) 椿 権三

風に吹かれて再び(7)—バベルの塔 原 造

キリストの説かれた 幸いなる道(9) 九里 彰

霊的研究会講義録(23)—聖書・祈り・愛について
奥村一郎

2023年 特集号

現代、宗教を生きる事の意味：

カルメル会からの提言—カルトと宗教—

自分の心の中—心の深い深いいちばんの奥底に…
—アビラの聖テレジアの宗教性 中川博道

人間学としての精神医学 濱田秀伯

人間となる道—十字架の聖ヨハネの教えと生涯 九里 彰

神との出会いの喜び
—教皇フランシスコの『創造の福音』に照らされて
松田浩一

幼きイエスの聖テレジアの宗教性 大瀬高司

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・
各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊：春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を
下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当：内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又は e-mail で。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.iimu@gmail.com

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chaque Etoile
小野崎良子 編

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

小野崎 良子(おのぎき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

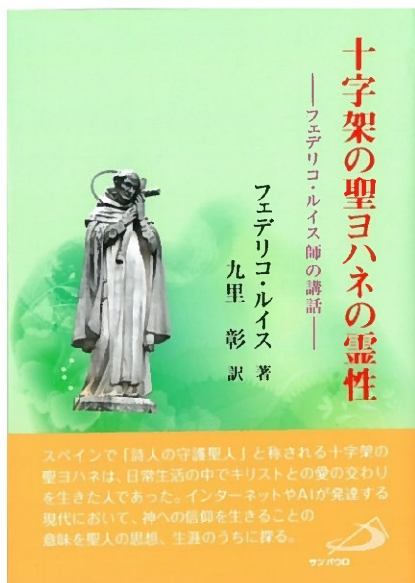
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程

修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン

留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

————— 目次 —————

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

— すべての人のための霊性神学 —

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 畏（1）
- 第2章 皆 畏（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士の学位を得る。その後、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





**第2版
好評発売中!**

福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

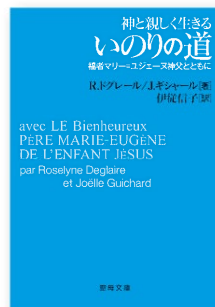
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドグレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



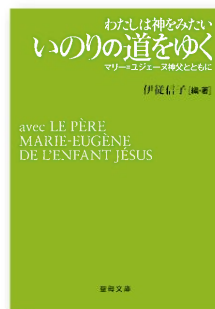
わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

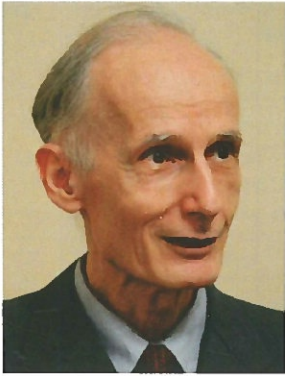
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	I 超越体験 — 宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 — 聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかがわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い — キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 — 哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 — 根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) **
(2024年4月～)

- ・ 聖書深読黙想会 (土曜日 18時～日曜日 16時) カルメル会士

2024年

4月20日～21日

11月9日～10日

5月25日～26日

2025年

7月27日～28日

1月11日～12日

9月28日～29日

3月15日～16日

- ・ 奉獻生活者のための黙想会 (初日 17時～最終日朝食) カルメル会士
2024年8月16日 (金) ～25日 (日)

★教会の祈り (時課の祈り) を軸とした 黙想の場を提供いたします。

12月27日 (金) ～1月5日 (日)

【ご利用に際して】

- ・ 介助やサポートなしで生活できる方、年齢は80歳までとさせていただきます。
- ・ 上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・ 個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・ 部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です (グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院 (黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

2024年 カルメル会四旬節講話シリーズ

「わたしたちを愛に導くのは信頼、ただ信頼だけです」(聖テレーズのメッセージ)
聖テレーズ生誕 150 周年記念 教皇フランシスコ使徒的勧告『信頼』に導かれて…

- 第1回 2月18日(四旬節第1主日)
「私は愛になりましょう」—愛の道を飛んでいくために— 今泉健神父
- 第2回 2月25日(四旬節第2主日)
詩『むしられたバラ』より —テレーズの愛の道— 九里彰神父
- 第3回 3月3日(四旬節第3主日)
「テレーズの信頼の道・小さい道とヤコブ・イスラエルにおける小さい道」
志村武神父
- 第4回 3月10日(四旬節第4主日)
「現代の闇を照らす灯火—テレーズの信仰の試練」
片山はるひ(上智大学教授：ノートルダム・ド・ヴィ会員)
- 第5回 3月17日(四旬節第5主日)
「小さな偉大さ」 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ会員)

- ・会場：東京世田谷区上野毛2-14-25(東急大井町線「上野毛」下車
徒歩5分) カルメル修道会 聖堂
- ・開始時間：14:00 講話後 当日のミサがあります。
- ・オンラインでもご視聴いただけます。ライブ配信ではありません。翌日からのご視聴になります。

アクセスコード URL:

<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

主催：カルメル修道会
お問い合わせ：「四旬節講話係」
reisei@carmel-monastery.jp

旧約聖書から学ぶキリスト教霊性
—キリストの十字架の恵みをより味わうために—

2024年4月20日（14：30～16：30）

ヨシュア紀の全体構造とメッセージ

2024年5月18日（14：30～16：30）

士師記の全体構造とメッセージ

その後の日程：6月22日、7月20日、9月21日、10月19日

その後のテーマ：サムエル記の全体構造とメッセージ①、②、列王記の全体構造とメッセージ、エズラ・ネヘミヤ記の全体構造とメッセージ、など

持ち物：必ず聖書（旧約＋新約）をご持参ください。

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

参加費無料。

担当：志村武神父（跣足カルメル修道会）

問合せ：日比野修道院（052-671-1003）

静修の集い（名古屋日比野修道院）

2024年6月29日（土）10：00～15：00

テーマ：アビラの聖テレジアの祈り

講話担当司祭：今泉武神父

【スケジュール】

10：00～10：20 はじめの祈り

10：30～11：30 講話①

11：30～12：00 ご聖体顕示、念祷

12：00～13：00 昼食（各自持参）

13：00～14：00 講話②、

14：10～ミサ、その後茶話会、解散（15：00頃）

持ち物：聖書、昼食（各自）

参加費：無料（自由献金をお願いいたします）



宇治カルメル会 黙想会案内 (2024年4月～2025年3月)

【一般のための黙想】 1泊2日 (土曜 午後5時～日曜午後4時) 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ (修道院) から開始

2024年

4月13日～14日 7月20日～21日 9月14日～15日 11月16日～17日

2025年

1月18日～19日 3月1日～2日

【聖書深読】 (土曜午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

4月6日 6月8日 9月28日 11月30日

2025年

1月11日 3月15日

【水曜黙想会】 (午前10時～午後4時) 中川博道神父

2024年

4月17日 5月15日 6月12日

7月17日 9月11日 **変更**→18日 10月16日 11月27日 **変更**→20日

2025年

1月22日 2月19日 3月19日

【カルメルの霊性】 (午後5時～午後4時)

カルメル山の聖母 7月14日(日)～15日(月) 中川博道神父

幼き聖テレジア 9月28日(土)～29日(日) 松田浩一神父

十字架の聖ヨハネ 12月21日(土)～22日(日) 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 中川博道神父

4月27日(土) 午後5時～5月4日(土) 朝食

参加者は全日通しでもどの日からでも期間は自由

【祈りの学校 入門編】 (火曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

4月9日 5月7日 6月4日 7月2日

9月17日 11月12日 12月3日

【祈りの学校 教会の祈り】 (木曜 午前10時～午後4時) 松田浩一神父

2024年

4月18日 5月23日 6月20日 7月11日

9月26日 10月17日 11月14日 12月19日

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時）

2024年

8月9日(金)～18日(日) 松田浩一神父(奉献者のみ)

10月7日(月)～16日(水) 中川博道神父(一般可)

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父(一般可)

2025年

3月4日(火)～13日(木) 中川博道神父(一般可)

【青年男女のための黙想会】（35歳以下） 松田浩一神父

1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時 日曜のみ参加可）

2024年

4月20日～21日 6月15日～16日 10月19日～20日

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院（黙想）
Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191
E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp
<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「祈りの学校」(2024年度)

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



日時(入門編) : 1月30日(火) 2月20日(火)、3月19日(火)、4月9日(火)、5月7日(火)、6月4日(火)、7月2日(火)、9月17日(火)、11月12日(火)、12月3日(火)

***日時(教会の祈り)** : 1月11日(木)、2月13日(火)、3月21日(木)、4月18日(木)、5月23日(木)、6月20日(木)、7月11日(木)、9月26日(木)、10月17日(木)、11月14日(木)、12月19日(木)

いずれも、10時から16時まで

場所：宇治聖テレジア修道院(黙想)

指導：松田浩一 神父 (男子カルメル修道会)

持参するもの：ノート、筆記、ロザリオ(*『教会の祈り』)

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒158-0093 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院(黙想)

Fax 0774-32-7456

E-mail : teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

教皇フランシスコの著作を学びましょう

日時：① 2024年2月10日（土）PM5時～2月11日（日）PM5時

② 2024年4月20日（土）PM5時～4月21日（日）PM5時

③ 2024年6月15日（土）PM5時～6月16日（日）PM5時

④ 2024年10月19日（土）PM5時～10月20日（日）PM5時



（尚、日曜日 PM4時から京都女子カルメル修道院でミサの予定）

- ① 教皇来日講話集：『すべてのいのちを守るため』
- ② 使徒的勧告 『喜びに喜べ』
- ③ 使徒的勧告 『愛のよろこび』
- ④ 回勅 『ラウダート・シー』と使徒的勧告『ラウダーテ・デウム』

教皇フランシスコは、現在起こっている各地の戦争を憂慮しています。日本も国際社会の一員として他人ごとではありません。私たちの思いを凌駕する神の思いとは何でしょう。人間の正義を凌駕する神の義は「いつくしみ」とテレーズは言います。教皇の著作からこのことを学ぶことに致しましょう。

場 所：宇治聖テレジア修道院（黙想）

対 象：35歳までの青年男女

参加費用：下記のEメールか、FAXでご確認ください。

講話と同伴：松田浩一神父

申込み：〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

FAX：0774-32-7457

Email：teresiauji@mountain.ocn.ne.jp





朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のもものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

*費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

*講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

*問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。

真命山 2024年 — 祈りの集いのご案内

テーマ 真の幸せへの道 「…あなたがたは喜びで満たされる」 (ヨハネ16.24)

毎月第2木曜日(10:00~15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月11日 「イエスは…群衆を見て、山に登られた」(ソットコルノラ・フランコ神父)
2月8日 「神よ…あなたのほかに しあわせはない」(ソットコルノラ・フランコ神父)
3月14日 心の貧しい人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
4月11日 悲しむ人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
5月9日 柔和な人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
6月13日 義に飢え渴く人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
7月11日 憐れみ深い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
8月 休み
9月12日 心の清い人々は、幸いである(コデノッティ・クラウディオ神父)
10月10日 平和を実現する人々は、幸いである(Sr. マリア・デ・ジョルジ)
11月14日 義のために迫害される人々は、幸いである
(コデノッティ・クラウディオ神父)
12月12日 喜びなさい。大いに喜びなさい。(コデノッティ・クラウディオ神父)

・個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
那須 リピーターの会	4/27(土)9:00- 4/29(月・祝) 14:00 (前泊可)	同上	ベタニア修道女会 ヨゼフ山の家/栃木 県那須郡那須町	来間(くるま) 裕美子※ *ショートメールは避けてく ださい。 Tel:090-5325-2518 sadhana12378@ yahoo.co.jp
ダイアリー	5/2(木)17:30- 5/6(月・祝) 16:00	同上	上石神井無原罪聖母 修道院/練馬区上石 神井	同上
名古屋入門A	5/12(日) 9:30-17:00	同上	聖霊会 八事修道院 ミッションセンター /名古屋市昭和区	攪上(かくあげ)暁子 Tel:050-7108-7410 ngosdn@gmail.com
入門B	5/19(日) 9:30-17:00	同上	援助修道会 リヒト宣教室	来間(くるま) 裕美子※
サダナI	5/23(木)17:30- 5/26(日)16:00	同上	小金井聖霊修道院 /小金井市桜町	同上
沖縄 フォローアップ	5/30(木)9:00- 5/31(金)18:00	同上	沖縄県内施設 (受付にお問合せくだ さい)	佐藤芳樹 Tel:080-3188-6573 jonah3295@gmail.com
沖縄 I&アドバンス	6/1(土)9:00- 6/2(金)18:00	同上	※通いも可能です	

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場
合は090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel&Fax:042-325-7554

●フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナIを終えているこ
と。

●入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

今年1月1日に、能登半島地震が起き、輪島市、珠洲市など、能登地方の人々は、家の倒壊、道路の地割れなど、甚大な被害を受けました。233名の方が亡くなられ、1175人が怪我をされ、1万5309人が今なお避難生活を余儀なくされています(1月23日現在)。一日も早く平穏な生活に戻れるよう、心からお祈りしたいと思います。

今年度の「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。いままで、アピラの聖テレジアや十字架の聖ヨハネ、モーリス・ズンデルや聖書などをテキストとして使用してまいりましたが、今回は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在(無機物から植物や動物や人間)を支えておられる、憐れみ深い神の前にありのままの自分を置き、祈りの内に神との交わりを深め、神の声に静かに耳を傾けて行きましょう。

場所: イグナチオ教会岐部ホール 404号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩1分)

時間: 以下の木曜日、13:30～15:30

5月9日 7月11日

9月12日 11月14日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご利用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457

reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

